

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名	サイクリストの聖地鳥取県整備事業				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
47,166	(流用) 4,215	51,381	27,948	20,000	3,433
1 主な事業の実施状況					
(1) ナショナルサイクルルート (NCR) 指定に向けた展開 (2,835千円) (繰越額20,000千円)					
・「鳥取うみなみロード整備計画」に基づき、矢羽根や注意喚起の路面表示などの自転車の走行環境整備を進め、約75%の整備が完了。					
・サイクルカフェ協力店舗数が174件 (R5:161件)、サイクルポートが121件 (R5:116件) となった。					
・自転車の客室持込等が可能な宿泊施設40施設 (R5:38施設) を「サイクリストに優しい宿」として認定した。					
・東・中・西部でサイクリングガイド養成講座を実施し、サイクリングガイドを養成した。(18名) (R3～6:延べ73名が受講)					
(2) サイクルツーリズムの全県展開 (17,470千円)					
・レンタサイクルの拠点整備として、自転車購入等に係る経費の支援 (2拠点) を行うとともに、サイクリストの玄関口 (ゲートウェイ) である米子空港へ組立スペースの整備支援を行った。					
・多くの県外サイクリストが参加する県内サイクルイベントの開催に対して支援を行った。(3件)					
・JR西日本と連携し、定期列車 (普通列車) でのサイクルトレイン運行を期間限定で実施した。 (区間:「鳥取うみなみロード」と並走しているJR山陰本線・鳥取－米子間、期間:10/13～12/8、利用実績:延べ50名 (乗車率約57%・販売枠数87名))					
・「鳥取うみなみロード」の認知度向上につなげるためロゴマークを公募の上、策定した。					
(3) 広域連携・情報発信 (7,643千円)					
・中国地方知事会サイクリング部会において関西のサイクルイベントの出展やサイクル専門誌への掲載を行い、広域的なPRを実施した。					
・県観光連盟 WEB サイト内の「とっとり自転車旅」ページにおいて、観光客向けのサイクルツーリズム情報を発信するとともに、InstagramやFacebookを活用した魅力発信を行った。					
・フォトキャンペーンの実施やYouTube等の活用のほか、全国規模のサイクルイベントでブース出展を行うなど、「鳥取うみなみロード」や「サイクリストの聖地鳥取」を広くPRした。					
2 事業の成果 (改善状況)・課題等					
○事業成果					
・「鳥取うみなみロード」のNCR指定要件クリアに向けては、「鳥取うみなみロード整備計画」に基づき整備を進め、 <u>NCR指定要件 (必須項目) のうち、走行環境の2項目を除いて、すべての要件をクリア見込みとなった。</u>					
・令和6年度の期間限定運行の実績 (延べ50名 (乗車率約57%・販売枠数87名)) により、 <u>令和7年4月からサイクルトレインの通年運行 (JR山陰本線・鳥取－米子間) の実現につながった。</u>					
・ダイジョウブシステム (サイクルカフェ等) の <u>登録数が20件増加した。(R5. 315件⇒R6. 335件)</u>					
・過去に支援したレンタサイクル拠点 (6施設) の、 <u>貸出台数が129台増加した。(R5. 475台⇒R6. 604台)</u>					
・県内外サイクリストや地域住民・事業者が参加するサイクルイベントへの支援等を通して、本県サイクルツーリズムの受入態勢の整備や地域における機運醸成につなげた。					
○課題					
・走行環境については、NCR指定の目安となる要件充足率約7割を達成済 (達成率約75%) ではあるが、路肩未整備等 (交通量1万台/日超の区間では路肩幅1m以上の確保が必要) による要件未達成区間が約3割 (約25%) あり、指定後も含めて今後対策が必要。					
・サイクリストの聖地鳥取を実現するため、鳥取うみなみロードを起点に各圏域への周遊する仕掛けづくりや来訪促進、受入態勢の充実、ロゴを活用した鳥取うみなみロードの認知度向上に向けた情報発信などの取組を進めていくことが必要。					
・米子⇄台湾便の就航を契機にした台湾サイクリストの誘客など、インバウンド誘客に向けた受入環境や情報発信の更なる充実強化が必要。					

事業名	フィルムコミッション活動強化事業／とっとりロケツーリズム推進事業				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
20,457	(9月) 2,750 (流用) △3,000	20,207	19,086	0	1,121

1 主な事業の実施状況

鳥取県フィルムコミッションが行う県内ロケ誘致・ロケ支援等に要する経費を補助する。(補助率 10/10)

(1) フィルムコミッション活動支援 (11,706千円)

- フィルムコミッションの運営に要した経費を補助した。(人件費 2 名分、活動費)

(2) ロケ誘致活動強化 (1,150千円)

- 全国組織が主催する制作会社との商談会や首都圏の制作会社・プロデューサーへの個別訪問など、ロケ誘致を展開した。(計 3 回参加／のべ110社と商談)
[商談会] ジャパンフィルムコミッション主催「全国ロケ地フェア」: 8月・1月
ロケツーリズム協議会主催「マッチング大会」: 11月
- ロケ誘致に活用する県内ロケ地を掲載した冊子「鳥取県ロケーションガイド」を改訂した。

(3) ロケ及びロケハン助成 (80千円)

- ロケ誘致のためロケハンを行う制作会社等へ支援を行った。
[実績] 80千円 (40千円× 2 人)

(4) 誘致作品プロモーション (3,000千円)

- 令和 6 年11月に公開された映画「ルート 2 9」と連携して、ロケ地マップや特設サイトを通じて県内ロケ地を P R した。
- 県内の機運醸成や観光客への情報発信を図るため、撮影風景やロケ地情報を入れたパネルを作成し、映画ゆかりの地でロケ地パネル展を実施した。(県内5カ所: 県立図書館、鳥取砂丘ビジターセンター、若桜町立図書館、道の駅若桜、ギャラリー夏色 (鳥取市太平線通り商店街))

(5) 県内関係者連携強化 (400千円)

令和6年7月に国内外からのロケ誘致及びロケ受入体制の強化のため、官民連携による「とっとりロケツーリズム官民推進連携会議」を設立。観光団体を対象にした先進地の事例を学ぶセミナー、及び一般県民を対象に地元出身の映画監督による講演会を開催。
「足立紳監督と語るフィルムコミッションの世界」(令和7年2月22日、足立 紳 (監督・脚本家)、参加者数140名)

(6) とっとりロケツーリズム推進事業 (2,750 千円)

- ロケツーリズム協議会と連携して地方ロケに関心の高いプロデューサーを招聘し、県内ロケ候補地を巡るロケハンツアーを開催した。
[実績] 12月 (12/11-12) 及び 1 月 (1/21-22) に 2 回開催。のべ4名のプロデューサーを招聘。
(主な視察先: 鳥取砂丘、白壁土蔵群、燕趙園、米子城跡等)
- 業界誌「ロケーションジャパン」に県内ロケ地の紹介記事等を掲載。

2 事業の成果 (改善状況)・課題等

○事業成果

- 積極的な誘致活動や支援制度などの受入体制を強化した結果、フィルムコミッションへの問合せ件数が増加した [R6 : 159件 (対R5比+32件/25%増)]
- 大型ロケ「ルート29」の受入実績が一つの武器となり、商談会においても相手方に対してより積極的な売り込みが可能となった。
- 問合せのあった制作会社等へのロケ地情報の提供やロケハン同行など県フィルムコミッションを中心とした丁寧な対応により、R7以降、複数の映画・ドラマの大型ロケが予定されている。

○課題

- より積極的なロケ誘致を展開するため、情報発信力の更なる強化が必7要。
- ロケ誘致には地元の受入協力が不可欠であり、ロケツーリズム協議会を通じて、市町村等のフィルムコミッションへの理解を促進し、県全体の受入体制の強化が重要。

事業名	大阪・関西万博を契機とした誘客促進戦略事業／とっとりリアル・パビリオン誘客促進事業				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
0	(6月) 80,000 (9月) 26,500	106,500	64,643	0	41,857
1 主な事業の実施状況					
【大阪・関西万博を契機とした誘客促進戦略事業（6月補正）】					
(1) 情報発信（30,746千円）					
とっとりリアル・パビリオン特設サイトを開設するとともに、SNSでの情報発信・広告配信、メディア招聘や県外イベント等でのPRを実施した。(7/1～)					
・フォトキャンペーン(7/19～1/10)の開催（応募総数2,554件）、SNS広告の配信、JR大阪駅周辺でのデジタルサイネージ等へ広告掲載					
・FOODEX JAPAN in 関西2024への出展（9/18～20、来場者数10,770人）					
・シンガポール人インフルエンサー（12/7～8）や香港メディア（10/10～15）の招聘					
・関西圏の観光拠点へのパンフレット配架（関西国際空港、京都タワー、難波観光案内所等）					
(2) 旅行商品造成支援（7,461千円）					
国内外の旅行会社へ働きかけ・支援を行い、万博期間中の鳥取への旅行商品造成を促進した。					
・国内旅行会社を対象に鳥取県内で観光情報説明会・商談会を開催（9/11～12、126名出席）					
・日本旅行と連携した個人向け「とっとりリアル・パビリオン」専用旅行商品の造成					
・インバウンド旅行商品造成に向けたFAMツアー等の実施					
（9/4～7：中国企業の社員旅行向け、12/13～14：JR連携による旅行商品向け）					
(3) とっとりリアル・パビリオン推進（2,109千円）					
関西パビリオン鳥取県ゾーンでまんがキャラクターと一緒に写真撮影するARフォトフレームの制作。					
(4) とっとりリアル・パビリオン充実支援（914千円）					
体験型観光コンテンツの新規造成・磨き上げの支援、及び「鳥取の食」と「体験型観光」を組み合わせた新商品の造成支援を行った。[上限100万円、補助率1/2]					
・NFTを活用した酒蔵スタンプラリー（株式会社澤寿運輸）					
・飾り用しゃんしゃんミニ傘づくり（株式会社Casting net）					
・弥生人とカレーの顔はめパネル体験と自分で作る弥生スイーツの開発（有限会社ハートワークイナバ）					
【とっとりリアル・パビリオン誘客促進事業（9月補正）】					
(1) 兵庫県との連携（3,782千円）					
・両県を周遊するテーマ別ルートの設定及び両県の各サイトで相互に情報発信					
・台湾、香港からインフルエンサーを招聘し、周遊ルートの情報発信（2/17～20）					
(2) 関係事業者との連携（12,532千円）					
・NEXCO西日本：鳥取県限定のドライブパスの造成及びPR					
・JR西日本：各駅でのPRポスター掲出（3/21～31）、大阪駅のJR所有のサイネージでの鳥取県PR（11/4～10、1/4～3/31）					
・ANA：国際線の機内モニターでの鳥取観光PR動画の放映（12/1～2/28）					
・OTA（じゃらん・楽天）での特設ページの開設（じゃらん3/3、楽天3/10～）					
(3) おもてなし機運醸成（7,099千円）					
・「とっとりリアル・パビリオン」PR幟旗の掲出（観光・宿泊施設等約280か所）					
・Z世代をターゲットに縦型ショートドラマ（約30秒×6話）の制作・SNS配信					
2 事業の成果（改善状況）・課題等					
○事業成果					
・特設サイトの表示回数16万回超え、縦型ショートドラマは累計220万回再生超え、フォトキャンペーンは約2,500件の応募など多くの方に鳥取県の観光の魅力を伝えることができた。					
・旅行会社への働きかけを通じて、とっとりリアル・パビリオン関連の国内外からの旅行商品を多数造成し、誘客につなげている。					
（令和6年宿泊者数2,937千人（速報値）、前年比+31.8% 出典：観光庁宿泊旅行統計）					
○課題					
万博を契機とした情報発信により国内外から本県への関心が高まっており、今後も地域資源を活かした新たな体験型コンテンツとともに旬の観光情報を発信し、誘客促進を図っていく必要がある。					